**日本監査役協会**

グループ・ガバナンスと監査役等の監査についてのアンケート調査

【最終親会社用】

　国内外への事業活動の拡大により、企業はグループ全体での成長を追求している中、監査役等は、グループ全体での監査の実効性向上やグループ会社の不祥事の防止に努めていく必要があります。

本調査は、グループ・ガバナンスのあり方と監査役等の監査についての実態を把握して、その紹介や今後のグループ監査活動の取組みに関する提言を取りまとめることを目的としております。

　調査対象として、本会会員のうち原則としてグループ会社を有する監査役(会)設置会社、監査等委員会設置会社および指名委員会設置会社の方々に、ご協力をお願い致します。調査内の「監査役等」は、監査役、監査等委員、監査委員をいいます。

**ご回答期間　2025年５月１９日（月）～６月６日（金）**

ご回答は、**１社１回答**でお願いいたします。E-mailのご案内に記載しました**「アンケート用パスワード」**をご入力ください。１社につき１つ設定しております。

質問は全38問（うち自由記述回答の質問は10問）ありますが、全ての会社が全問にご回答頂くものではありません。

前の設問へ戻る場合は、必ず画面左下の「<<戻る」ボタンをクリックしてください。

回答を途中で中断される場合は、各画面の下にある「回答を保存し中断する」ボタンをクリックすると回答が保存されます。再度ログインすると、中断した画面から再開します。

**お問合せ先e-mail:** [**section2@kansa.or.jp**](mailto:section2@kansa.or.jp)

ご回答いただいた内容は、個人や企業名が特定される形で公表されることは一切ありません。

また、この調査でご回答いただいた内容を、当協会で実施する別の調査や研究で活用させていただくことや大学等研究機関において学術研究のために利用させていただくことがあります。

なお、個別のご回答内容を第三者に提供することは一切ありません。

（目次）

F　回答会社の属性

1．親会社でのグループ・ガバナンスの取組み状況

2．「3ラインモデル」の状況

3．子会社監査役の選任状況

4．グループ会社の不祥事の報告

5．グループ内部通報制度

6．グループ・ガバナンスの課題

7．グループ会社の監査

回答会社の属性

**F1　貴社のグループにおける位置付け**（１つ選択）

1. 最終親会社である

2. 子会社である（自社も子会社を有する会社）　→質問票「子会社・単体会社用」へ

3. 子会社である（自社に子会社はない会社）　　→質問票「子会社・単体会社用」へ

4. 単体会社である（親会社・子会社はない会社）→質問票「子会社・単体会社用」へ

　※子会社の監査役を兼務している場合でも、最終親会社の監査役等であれば「最終親会社」を選択してください。

　※選択肢2～4に該当する場合は、質問票「子会社・単体会社用」にご回答ください。

**F2 貴社の機関設計**（１つ選択）

1. 監査役(会)設置会社

2. 監査等委員会設置会社

3. 指名委員会等設置会社

**F3　上場区分**（１つ選択）

　　1. プライム市場　　　2. スタンダード市場　　　　3. グロース市場

　　4. その他上場　　　　5. 非上場会社

**F4　従業員数（連結）**（１つ選択）　※開示している数

　　1．300人未満　　　　2．300人以上1千人未満　　　　3．1千人以上1万人未満

4．1万人以上10万人未満　　　　5．10万人以上

**F5　資本金額**（１つ選択）

1. 1億円未満 　　　　 　　 2. 1億円以上5億円未満

3. 5億円以上10億円未満　　　　 　 4. 10億円以上30億円未満

5. 30億円以上50億円未満　　　 6. 50億円以上100億円未満

7．100億円以上500億円未満　　　 8．500億円以上

**F6　業種**（１つ選択）

1. 製造業　　　2. 非製造業

**F7　最終親会社の組織形態**（１つ選択）

1. 純粋持株会社　　　　　2. 事業会社

**F8　国内子会社の数**（１つ選択）※開示している子会社数

1．1～5社　　　　2．6～10社　　　　3．11～30社　　　　4．31～50社

5．51～100社　　　　6．101社以上　　　　7．0社

**F9　海外子会社の数**（１つ選択）※開示している子会社数

1．1～5社　　　　2．6～10社　　　　3．11～30社　　　　4．31～50社

5．51～100社　　　　6．101社以上　　　　7．0社

１．親会社でのグループ・ガバナンスの取組み状況

**Q1　貴社では、グループ全体の経営に関してどのような方針、計画等が策定されていますか。**（複数選択可）

1. グループ全体の企業理念、経営方針、経営戦略等が策定されている

2. グループ全体の中期経営計画が策定されている

3．事業ポートフォリオに関する基本的な方針が策定されている

4．グループ企業の設計方針、子会社の設置方針などが策定されている

5．グループの行動指針、倫理基準などが策定されている

　6．グループ全体の人事・報酬制度が策定されている

7．その他（自由記述）

**Q2　貴社の取締役会では、グループ全体のリスクや内部統制などに関する議論や報告がされていますか。**（複数選択可）

1．子会社のリスク分類やグループ全体のリスクマネジメントについて議論されている

2．グループ会社の不祥事やインシデント（事故、不測の出来事など。重大なものに限らない）が報告されている

3．グループ会社の内部統制システムの運用状況等が報告されている

4．グループ会社の内部監査の状況・結果が報告されている

5．グループ会社の内部通報制度の状況・結果が報告されている

6．子会社の経営状況、重要事項、業績などが報告されている

7．その他（自由記述）

**Q3　貴社では、子会社に関する承認事項がありますか。**（複数選択可）

1．子会社の予算など

2．子会社役員の人事

3．子会社役員の報酬等

4．子会社の多額の投資・借財など

5．子会社の計算書類、開示事項など

6．その他（自由記述）

**Q4　貴社グループでは、グループ運営に関わる統一的な制度等がありますか。**（複数選択可）

１．子会社管理規定等がある

　２．経営管理契約等を締結している

　３．人事制度・報酬体系が統一されている

　４．ITシステム等が統一されている

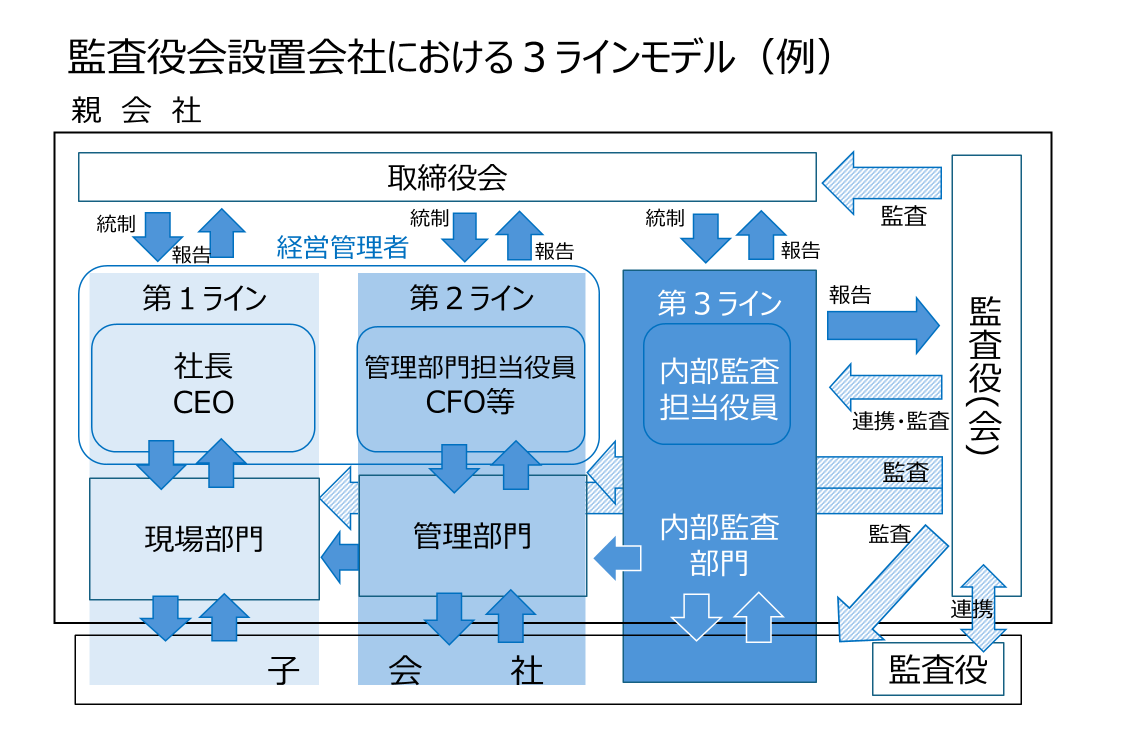
５．会計システム等が統一されている

　６．その他（自由記述）

２．「３ラインモデル」の状況

内部監査人協会（The Institute of Internal Auditors；IIA）は、組織のリスクマネジメントに効果的な考え方として、従前「3つのディフェンスライン（Three Lines of Defense）」を推奨していましたが、これを改訂し、2020年7月に新しく「3ラインモデル」を発表しました。

第1ラインは現場部門（営業、生産など）、第2ラインは管理部門（財務、人事、法務、リスク・コンプライアンスなど）、第3ラインは内部監査部門をさします。



**ここでは、貴社における３ラインモデルの運営について質問します。**

**子会社の状況を含めた質問では、主に中核子会社を想定してご回答ください。**

（1） 第1ライン（現場部門）の取組み

**Q5　貴社や子会社の現場部門は、内部統制やリスク管理などのために、どのような取り組みを実施していますか。**（複数選択可）

1．社内規程、業務フローなどを整備している

2．ITインフラ、システムなどを整備している

3．コンプライアンスに関する研修・教育を実施している

4．リスクについて研修・教育を実施している

5．グループの行動指針、倫理基準などを周知している

6．その他（自由記述）

**Q6　貴社（親会社）の監査役等は、貴社や子会社の現場部門に対して、通常どのように監査していますか。下記の監査方法のうち重視しているものを３つまで選択してください。**（複数選択可）**また、現場部門への監査について、取り組みや課題がありましたらご記入ください。**

　1．管理部門（第２ライン）のモニタリング結果等を確認する

　2．内部監査部門（第３ライン）の監査結果等を確認する

　3．監査役等が子会社社長、現場部門の担当役員等から報告を受ける

4．監査役等が現場部門や重要な子会社へ往査に行く

　5．監査役等が現場部門や子会社等に対して詳細な監査を行う（内容を自由記述）

　6．その他（自由記述）

（2） 第２ライン（管理部門）の統制と機能発揮

**Q7　貴社や子会社の管理部門は、現場部門における内部統制やリスク管理などのために、どのような取り組みを実施していますか。**（複数選択可）

1．社内規程、業務フローなどの整備・運用状況を確認・支援している

2．ITインフラ、システムなどの整備・運用状況を確認・支援している

3．コンプライアンスに関する研修・教育を実施・支援している

4．リスクについての研修・教育を実施・支援している

5．グループの行動指針、倫理基準などを周知している

6．現場部門からの報告体制を整備している、現場部門から報告を受けている

7．現場部門に対するモニタリングを実施している

8．中期経営計画等の進捗を確認している

9．その他（自由記述）

**Q8　コンプライアンスまたはリスクに関する研修・教育は、主に貴社が実施していますか。**（1つ選択）

　　1．貴社（親会社）がグループ会社も含めて実施している

2．グループ会社がそれぞれ実施している

3．外部委託している

　　4．コンプライアンス等の研修はほとんど実施されていない

　　5．その他（自由記述）

**Q9　親会社の管理部門と子会社の管理部門は連携していますか。**（1つ選択）

**また、連携がある場合、どのような内容ですか。**

1. 十分連携している　　　2. ある程度連携している、連携している部署もある

3. あまり連携していない　　　　　4．連携していない　　　　5．不明

6．子会社に管理部門はない

**連携の内容について**（複数選択可）

　　1．子会社の管理部門から親会社の管理部門に報告されている

　　2．親会社の管理部門から、子会社の管理部門への指導・監督等がある

　　3．親会社の管理部門が、子会社の管理部門の人事を決定している

　　4．親会社（の管理部門）は、子会社の管理部門の人材確保に努めている

　　5．その他（自由記述）

**Q10　貴社（親会社）の監査役等は、****貴社や子会社の管理部門に対して、通常どのように監査していますか。下記の監査方法のうち重視しているものを３つまで選択してください。**（複数選択可）**また、管理部門への監査について、取り組みや課題がありましたらご記入ください。**

　　1．管理部門から報告を受ける

　　2．内部監査部門（第３ライン）の監査結果等を確認する

　　3．監査役等が管理部門の担当役員にヒアリング・意見交換を行う

4．監査役等が管理部門の重要な会議、委員会等に出席する

　　5．監査役等が管理部門に対して詳細な監査を行う（内容を自由記述）

　6．その他（自由記述）

（3） 第３ライン（内部監査部門）との連携

**Q11　貴社（親会社）の監査役等は、貴社の内部監査部門から子会社に関する報告を受けていますか。**（1つ選択）**また、報告を受けている場合、どのような内容ですか。**

1．報告がある　　　　2．報告はない

**報告がある場合の内容**（複数選択可）

1．子会社の監査結果の報告、内容の共有

　　2．監査により発見された課題等についての意見交換

　　3．子会社のリスク管理、内部統制等についての意見交換

　　4．その他（自由記述）

**Q12　貴社（親会社）の監査役等は、グループ会社の監査について貴社の内部監査部門とどのような連携をしていますか。****また、連携における取り組みや課題がありましたらご記入ください。**

**Q13　子会社に内部監査部門を設置していますか。**（1つ選択）

　　1．設置している（設置している会社もある）　→Q14-1

　　2．設置していない　　→Q15

**Q14-1　親会社の内部監査部門と子会社の内部監査部門は連携していますか。**（1つ選択）

**また、連携がある場合、どのような内容ですか。**

1．連携がある　　　　2．連携はない　　　　3．不明、その他

**連携がある場合の内容**（複数選択可）

1．子会社の監査結果の報告、内容の共有

　　2．監査により発見された課題等についての意見交換

　　3．子会社のリスク管理、内部統制等についての意見交換

　　4．その他（自由記述）

**Q14-2　貴社（親会社）の監査役等は、子会社の内部監査部門と直接連携していますか。**

（1つ選択）**また、連携がある場合、どのような内容ですか。**

1. 連携がある　　　2. 連携はない

**連携がある場合の内容**（複数選択可）

1．子会社の監査結果の報告、内容の共有

　　2．監査により発見された課題等についての意見交換

　　3．子会社のリスク管理、内部統制等についての意見交換

　　4．その他（自由記述）

（4） ３ラインモデル全体について

**Q15　これまでの質問のほか、貴社またはグループ全体での3ラインモデルの整備・運用状況について課題はありますか。また、3ラインを強化するための取り組みはありますか。**（自由記述）

**Q16　親会社役員（社長、管理部門の担当役員など）や子会社社長、グループ会社の役員へのヒアリングにおいて、グループ・ガバナンスに関してどのような意見交換を行っていますか。グループ会社の課題等について意見交換が行われていますか。**（自由記述）

３．子会社役員の選任状況

**Q17　親会社（貴社）の役職員は、子会社の役員（取締役、監査役）を兼務していますか。**（複数選択可）

1. 親会社取締役・執行役が、子会社取締役・執行役を兼務している

2. 親会社取締役・執行役が、**子会社監査役**を兼務している

3．親会社監査役等が、**子会社監査役**を兼務している

4．親会社監査役等スタッフが、**子会社監査役**を兼務している

5. 親会社現場部門の職員が、子会社取締役を兼務している

6. 親会社現場部門の職員が、**子会社監査役**を兼務している

7. 親会社管理部門の職員が、子会社取締役を兼務している

8. 親会社管理部門の職員が、**子会社監査役**を兼務している

9. 親会社内部監査部門の職員が、子会社取締役を兼務している

10. 親会社内部監査部門の職員が、**子会社監査役**を兼務している

11．兼務はない　→Q20

12．その他（自由記述）

**Q18　親会社（貴社）の役職員が子会社の監査役を兼務する場合、基準や方針などはありますか。**（複数選択可）

1．会計、法務、監査などの知見のある人材を選任している

2．内部監査部門の職員を選任している

3．親会社監査役等が子会社の監査役を兼務している

4．就任前後に監査役に必要な知見の教育・研修を実施している

5．子会社監査役の職責を重要なキャリアパスと位置付けている

6．その他（自由記述）

**Q19-1　親会社（貴社）の常勤監査役等は、グループ会社の監査役を何社兼務していますか。個人別に3人までの兼務社数を入力してください。**（数値入力）

　　常勤監査役等A氏　　【　　　】社

　　常勤監査役等B氏　　【　　　】社

　　常勤監査役等C氏　　【　　　】社

　　□誰も兼務していない　　→Q20

**Q19-2　監査役を兼務しているグループ会社での監査活動は、どのような内容ですか。**（複数選択可）

1．取締役会への出席

　2．経営会議など重要会議への出席

　3．主要な役職員へのヒアリング

　4．工場、支店等への往査

　5．管理部門（第2ライン）からの報告

　6．内部監査部門（第3ライン）からの報告

　7．その他（自由記述）

**Q19-3　監査役を兼務しているグループ会社の監査において、課題などはありますか。** （複数選択可）

　1．兼務先が多いため、兼務先の監査時間を確保できない

2．兼務先の会社規模と監査役の体制が見合っていないため、兼務先の監査負担が大きい

3．親会社の監査活動が多忙なため、兼務先の監査時間を確保できない

4．特に支障はない

　5．その他（自由記述）

**Q20　子会社には常勤監査役がいますか。**（複数選択可）

　１．重要な子会社にいる　　　２．上場子会社にいる　　　　3．原則いない

　4．その他（自由記述）

**Q21　子会社監査役の候補者や選任について、親会社監査役等は関与をしたことがありますか。**（複数選択可）

1．子会社監査役の候補者を、親会社監査役等会が選定し、執行部門に伝えている

2．子会社監査役の候補者の資質等について予め執行側に要望しており、そのうえで執行側と意見交換している

3．子会社監査役の候補者の資質等について予め要望はしていないが、執行側と意見交換はしている

4．子会社監査役の候補者の資質等について予め執行側に要望しているが、執行側と意見交換することはない

5．特に関与していない

４．グループ会社の不祥事等の報告

**Q22　貴社では、****不祥事やインシデント（事故、不測の出来事など。重大なものに限らない）****（以下「不祥事等」という）が発覚した際の対応方針や報告体制等がグループ全体で整備されていますか。**（1つ選択）

　　1．グループ全体での対応方針・報告体制等が整備されている

　　2．対応方針・報告体制等は整備されているが、グループ企業全ては含まれていない

　　3．対応方針・報告体制等は整備されていない

　　4．その他（自由記述）

**Q23　子会社で発生した不祥事等が親会社（執行側）に報告される基準・方針として、どのようなものがありますか。**（複数選択可）**また、特徴的な基準・方針がありましたら具体的にご記入ください。**

　　1．原則すべて報告される

2．被害金額の多寡による

3．関係者の職位による

4．報道の可能性による

5．企業価値の毀損の程度による

6．特段の基準・方針はない

7．その他（自由記述）

**Q24　子会社で発生した不祥事等が親会社（執行側）に報告される場合、同様の内容が監査役等にも同時に報告されますか。**（1つ選択）

　　1．原則すべて監査役等にも報告される

　　2．基準・方針に照らして監査役等に報告されない場合もある

　　3．特段の規程はない

　　4．その他（自由記述）

**Q25　グループ会社で不祥事等が発覚したことがある場合、親会社（の監査役等）に対してどのような報告や対応がされましたか。迅速に適切な報告・対応があった場合、あるいは課題があった場合などがありましたら、差し支えない範囲でご記入ください。**（自由記述）

**Ｑ26　グループ会社で生じた不祥事等を経て、貴社やグループ会社のガバナンスで変更・改善された事項はありますか。**（自由記述）

５．グループ内部通報制度

**Q27　貴社には、子会社を含めたグループ内部通報制度がありますか。**（1つ選択）

　　1．国内・海外子会社を含めたグループ内部通報制度がある　　→Q28

　　2．国内子会社のみを含めたグループ内部通報制度がある　　　→Q28

　　3．貴社（親会社）に内部通報制度はあるが、子会社は含まれていない　→Q30

　　4．グループ各社にそれぞれの内部通報制度がある　　　　　　→Q30

　　5．その他（自由記述）　　　　→Q30

**Q28　子会社では、グループ内部通報制度についてどのような取組みや運営がされていますか。**（複数選択可）

　　1．制度についてポスターの掲示、小冊子等の配布などの周知をしている

　　2．イントラネットや社内報などに掲載している

3．制度について従業員に対する研修等を実施している

　　4．海外子会社に向けては通報先を多言語対応している

　　5．その他（自由記述）

**Q29-1　グループ内部通報制度は、監査役等からみて有効に機能していると思われますか。**（1つ選択）

　　1．有効に機能している　　　→Q30

2．有効に機能しているとはいえない側面がある　　→Q29-2

　　3．実効性に課題がある　　　→Q29-2

4．不明、その他　　　　　　→Q30

**Q29-2　グループ内部通報制度が有効に機能していないと思われる理由として、近いものを選択してください。**（複数選択可）

**また、具体的な課題やその対応、取組みなどについてご記入ください。**

　1．通報件数が少ない、ほとんどないため

　　2．通報内容が制度の趣旨にそぐわないものが多いため

　　3．制度が全てのグループ会社に周知されていないため

　　4．通報を受けた後の対応手順や体制が整備されていないため

　　5．外部への通報窓口が整備されていないため

　　6．通報窓口が多言語対応されていないため

7．その他（自由記述）

６．グループ・ガバナンスの課題

**Q30　子会社のガバナンスについて、監査役等からみて具体的にどのような課題があると思われますか。当てはまる項目を選択のうえ、具体的な内容についてご記入ください。**（複数選択可、自由記述）

1．子会社経営トップへの権限の集中、子会社役職員・キーパーソンの人事の固定化

2．子会社の取締役会の機能・効率性、子会社役員の数など

3．子会社の管理・監督の担当部署、方法

4．子会社からの報告内容、報告頻度など

5．海外子会社の統括・管理など

6．子会社のコンプライアンス、ガバナンス、内部統制などへの理解浸透

7．管理部門（第2ライン）が脆弱である

8．内部監査部門（第3ライン）が脆弱である

9．その他（自由記述）

**Q31　これまでの質問のほか、グループ・ガバナンスについて監査役等からみた課題や意見などがありましたらご記入ください。**（自由記述）

７．グループ会社の監査

**Q32　親会社（貴社）監査役等の監査方針や監査計画は、****子会社監査役との間で共有・連携していますか。**（1つ選択）

　　1．親会社（貴社）の監査計画等を基に、子会社の監査計画等を作成している

　　2．子会社は個別に監査計画等を作成し、親会社監査役等と調整している

　　3．子会社は個別に監査計画等を作成しており、親会社監査役等との調整はない

　　4．その他（自由記述）

**Q33　子会社や海外子会社の監査・往査において、その実効性を向上するために、どのような準備や取組み、連携などを行っていますか。**

**また、課題・対応策などもありましたらご記入ください。**（自由記述）

**Q34　いわゆるグループ監査役連絡会では、グループ全体での監査の実効性を向上するために、どのような準備や取組みなどを行っていますか。**

**また、課題・対応策などもありましたらご記入ください。**（自由記述）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。